

広島・福山の備南工業

プルリング式豆乳容器を開発

殺菌容易、コスト減で好評



容器の底——注入後に中に押し込む「逆転の発想」

許の「バキューム充填方式」により中身を一滴も漏らさず、速度を従来の4〜5倍に高めたポリ飲料充填機は、世界でもトップシェアを誇る。

プルリング式ポリ豆乳容器を開発したのは約2年前。プルリングは引っ張るだけで簡単に開いて

便利だが、キャップの形状が複雑で、豆乳の注入や密閉が困難。そこで同社は「逆転の発想」で容器の底に注入口を設け、密閉後に中に押し込むことで、プルリングまでを一体成型した、ポリ製の豆乳ボトル容器の開発に成功した。しかもプルリングは取っ手と開口部を大きくして、高齢者でも開けやすく、飲みやすいように配慮している。

備南工業はアジアを中心に海外でもその技術が高く評価されており、ここ数年、輸出量が大きく伸びている。また、少子高齢化による市場の縮小に備え、食品・飲料業界だけでなく、医療・福祉業界に向けての流動食容器、化粧品や洗剤の詰め替え用容器なども手がけ、事業の拡大を図っており、こちらでも大いに期待されている。

2006年(平成18年)2月21日(火曜日)

一 新 報

備南工業(小坂章則社長、広島県福山市新浜町1-2-17 ☎0849-5317788)が販売するポリエチレン製のプルリング式の豆乳容器は「ペットボトルに比べて密閉後の殺菌が容易で、コストも半分以下に抑えられる」と好評。このところ採用する豆腐業者が全国で相次いでいる。

豆腐をはじめ、食品や飲料の容器・充填機を主力とする食品機械メーカーの同社は、中央にくびれをつけた「チューチュー」と呼ばれるポリ飲料容器の開発でよく知られている。容器内の空気を抜いて充填する、同社特



高齢者でも開けやすい大きなプルリング